

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

教務部 平成30年度重点目標		
項目1	目標	2020年度の入試改革、指導要領改訂を見据え、検定の取得や道德教育、プログラミング教育の準備など、生徒の進路実現を確実なものにするための学校環境の整備を行っていく
	達成方法	教務規定全体を見直し、現規定では対応が難しいものや変化が必要なものを洗い出し、変更、加筆、修正などを行っていく。 日課時限の変更や追認定試験のあり方、帰国生への対応なども視野に入れておく。
項目2	目標	SGHアソシエイト校にふさわしい生徒を育てるために、生徒部や進路部との連携のとれた学校づくりをおこなう
	達成方法	タブレットやICTの活用を進め、スタディサプリの活用や外部検定取得、e-portfolioに対応するため、スタディサプリの活動メモの記載などを活用した 指導要録や調査書の発行などを研究していく。
項目3	目標	年間予定を考え、海外研修旅行や宿泊行事などの活用など、生徒にとってより良い学びを提供できるようにする
	達成方法	昨年に引き続き、海外研修旅行や宿泊行事について検討を続け、平成32年度をめどに制度化していく。 年間予定全体も検討し、学校行事の再整備も考えていく。
進路部 平成30年度重点目標(学力向上に向けて)		
項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業の実践
	達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。 タブレットや電子黒板などのICT機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。 授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業を実践する。
項目2	目標	生徒の進路意識改革
	達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。 進路ガイダンスを計画的に実施する。 年5回の「勉強マラソン」を継続する。
項目3	目標	教師の受験指導力アップ
	達成方法	大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。 大学入試に対応した講習を充実させる。
項目4	目標	中学の基礎基本事項の定着
	達成方法	MMT(Monday Morning Test)を継続して実施し、成績不良者への指導を徹底する。 基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。
項目5	目標	2020入試改革への対応
	達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。 英語外部検定試験の大学入試利用に対応するため、高校3年間を見通した英語教育指導プランを確定する。 e-portfolioに対応するため、スタディサプリの活動メモの記載について研究し、実践する。

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

生徒部 平成30年度重点目標(生きる力育成に向けて)		
項目1	目標	スーパーグローバルハイスクールの理念を追求し、必要なスキルアップを実現する
	方達成	文化祭等各種行事の実施にあたって、グローバル社会において求められる資質は何かを幅広く追及し、それを企画に活かしていく。
項目2	目標	校訓「恥を知れ」を生徒指導の基本的方針とし、挨拶の励行、マナー、モラルの意識向上並びに、校則等のルール遵守を基本的な生活習慣として、実践することを目指す。
	方達成	登校時指導、日々のHR指導、集会等を通じて挨拶の励行、登下校マナー等を日常的にしっかり身につくまで指導を徹底する。全教員が丁寧な対面教育を心がけるよう徹底する。
項目3	目標	道徳教育、ピア・サポート学習はカリキュラムに則り、全校でベクトルを統一する。「豊かな心」を養い、自他共に誇りをもてる学校づくりを目指す。
	方達成	道徳・LHR・集会等の指導を通じて人間的成長を促し、「思いやり」「寛容」の心を育て、心豊かな生徒を育てる。他者から共感や信頼を得られる人材の育成を目指し、成熟した人間関係の構築の基礎を習得する。
項目4	目標	教育活動において「目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。
	方達成	学園祭や合唱コンクール、生徒会活動などを通じて、「忍耐力」「協調性」「達成感」を学ばせ、自己肯定感を高めて、主体的に生き活きと目標に向かって努力する力を培う。同時に、困難な局面を克服し強く生き抜く力を育成する。
入試広報部 平成30年度重点目標		
項目1	目標	本校の目指す学校像、アドミッションポリシーに基づいた本校の実践・取り組みを広く、正確に外部に伝える。
	達成方法	教員全員による塾訪問および入試広報部員を中心とした外部学校説明会での広報活動を通して、具体的な情報を発信していく。
		本校主催の学校説明会や学校見学の手法を見直しつつ、入試区分ごとの入試説明会を実施する。
		Webサイトをより効果的に活用し、本校の全体像をより多くの方に理解していただく。
項目2	目標	現行のホームページ内容を精選し、リニューアルする。
	達成方法	Web登録を活用し、説明会予約や入試の出願、外部への情報発信を効率的に行えるようにする。
		HPやFacebook、ブログ等の媒体を多角的に活用した広報活動を年間を通じて実践する。
		SGH構想調書目標に基づき、増加傾向にあるGLC入学希望者のさらなる増加を目指す。
項目3	目標	海外での広報活動を継続しつつ、海外赴任者向け雑誌や海外説明会への資料参加をさらに積極的に行う。
	達成方法	海外帰国生入試選抜およびグローバル入試に導入した4技能英語能力検定試験のスコアや資格に関する情報発信をする。
		海外帰国生入試・グローバル入試における英語試験の改善を図る。
		学校全体として、より組織的に入試広報活動に当たれるよう企画運営をする。
項目4	目標	入試広報部として、外部説明会や研修会、また他校との情報交換や情報収集を継続する。
	方達成	校内の様々な情報を整理し、説明会等の資料として活用する。

平成30年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

企画室 平成30年度重点目標		
項目1	目標	生徒の成長の場としての学校、授業を提供するためのしなやかさを構築する。
	達成方法	「妻中サクセス」の継続(メモをとる、もぎとる、振り返る、時間を区切る、発表するなど)と、授業方法・スタイルを提案する。
		教員同士が相互に授業見学をいつでも気軽にできるようなしなやかさを。授業参観週間において研究授業の設定を全教員でおこなう。
		EMセンターのリニューアルについて、Future Class Roomの授業空間のデザインをICT委員会と連携しながらすすめていく。
		アクティブ・ラーニング型の授業と生徒たちの授業への向き合い方についてのPDCAを行う。
項目2	目標	『大学受験に向けての自己の蓄積、e-ポートフォリオへの対応』のための準備と教員の啓蒙
	達成方法	「わかば」の書き方指導から回収・チェックまで、「わかばマニュアル」をつくり、中学のうちに振り返りの習慣をつける。
		「何を記録するか」を整理し、全員に共通する記録項目と、それぞれの活動でつけられる「能力」を一覧にまとめる。
		授業や考査でどのような能力を育て、どのように評価するのか、ルーブリックも含めて各教科各分掌との連携を強化する。
項目3	目標	日常が変わるような英語活動の充実
	達成方法	とにかく学内で英語を使う機会を増やすしなやかさを、職員室の中の呼び方など、年度が変わって中途半端になっているところを再徹底する。
		EVAなどの生徒主体の活動を促進し、生徒同士のインタラクティブな学びをサポートする。
		Mr.NixonのOne Minute Englishだけでなく、各学年に合わせたリスニングプログラムができるように外国語科と連携する。
		外部4技能試験への対応に向けて、英語の授業デザインを一新するために外国語科と連携する。
国際部 平成30年度重点目標		
項目1	目標	SGH_Community校として、グローバル化に対応した教育をさらに深く研究し、"Beyond School" を合言葉に、国内外の様々な組織と連携し、各種プログラムの充実とその成果の本校教育全体への還元を進めていく。それにより、文部科学省へ申請した目標の達成に資する。
	達成方法	UNESCO School への加盟認可を前提に、UNESCO Schoolとして、SDGsを意識した取り組みを、カリキュラム内外で継続的に実施し、その成果の校内への浸透を進めていく。
		Model UN, HLAB, 英語ディベートコンテスト、大妻学院110周年記念英語プレゼンコンテスト、国内外の組織との交流プログラムの情報提供やその企画、実施を進め、その進行状況を共有できるように校務運営会議で、報告する。また、外国語科、地歴公民社会科を中心に教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒と一緒にファシリテイトしていく。
		外部機関、大妻女子大学国際センター、英語教育研究所、国内外の専門家、有識者、JSAF、IGS、WCEなどと積極的に連携し、グローバル教育関連情報やプログラムへのサポート体制をさらに充実させていく。
項目2	目標	本校SGH構想調書にある「留学をしたり、将来、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合では、SGHプログラムの対象となった生徒については、全員がこうしたことを考える生徒になることを目標とする」に向けて、留学と海外大学(国際併願)を目指す生徒数を前年度以上にする。
	達成方法	留学経験者、海外大学進学者による「エヴァンジェリオン活動」を積極的に行い、留学と海外大学進学の意味を生徒から生徒に伝え、周知できるように、学校のウェブサイトでの発表、説明会の開催などを重ねていく。
		「トビタテ！留学JAPAN」、「筑波・UBC、香港大学、ハワイ大学・グローバル・リーダーズ・プログラム」などのSGH校が目指す留学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。
		英語チューターを積極的に活用し、英語チューターによる英語4技能アドバイスなども積極的に行っていく。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム、海外進学相談、留学相談などを行う。
項目3	目標	事務室とも連携し、英語での教務実務、海外大学進学、留学に必要な教育実務を英語で行うシステムと人材の育成をより一層進めていく
	達成方法	英語で教育実務を実践できる人材開発は、最も重要な点である。外部組織との十分な連携なども含め、文書の英語化、英語による校内の日常的なコミュニケーションの頻度を増やし、また、英文書類の作成をマニュアル化していく。
		Collaborating Japanese teachers and English native teachers for assisting with students writing various kinds of application essays for study abroad programs, transferring to international schools or local schools outside of Japan and applying to universities in foreign countries.
		Collaborating and communicating with Japanese teachers and English native teachers for assisting with the editing of official school correspondence with various universities, middle schools, and our educational partners.